

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	23-072	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Dose-response relationship between alcohol consumption and workplace absenteeism in Australia オーストラリアにおける飲酒とアブセンティーズムの用量反応関係		
<b>執筆者</b>		
Marzan MB, Callinan S, Livingston M, Jiang H.		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Rev. 2023 Nov;42(7):1773-1784. doi: 10.1111/dar.13726.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アブセンティーズム、 飲酒、 オーストラリア、 従業員、 職場		37517043
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的:</b> アルコールによる労働生産性損失は 2017 年に約 40 億ドルと推定され、アブセンティーズムがこれらのコストの 90%を占めている。本研究の目的は、オーストラリアの労働者における 1 日あたりの平均飲酒量と大量飲酒 (HED) の頻度および職場のアブセンティーズムとの間の用量反応関係を明らかにする。</p> <p><b>方法:</b> 20 歳以上 69 歳以下の労働者を対象とした全国薬物戦略世帯調査 (NDSHS) 2019 年データを使用した。過去 12 か月間の飲酒量について調査されており、1 日の平均飲酒量により、禁酒者、軽度から中程度 (1~20 g/日)、リスクあり (20.1~40 g/日超)、高リスク (40 g/日超) の 4 つに分類された。HED は、4 つの頻度尺度 (1 度もない、月 1 回未満、月 1 回、少なくとも週 1 回) に分類された。結果変数は、過去 3 ヶ月間の (i) 飲酒による欠勤、および (ii) より広義の病気または負傷による欠勤の有無の 2 値とした。</p> <p><b>結果:</b> 飲酒する従業員は推定 6,542,204 人で、そのうち 2.2%が過去 3 か月間にアルコール関連の欠勤をしたと報告した。また、回答者の 26%が過去 3 か月間に 1 日以上の上義の病気による欠勤をしたと報告した。リスクあり飲酒者(調整オッズ比 4.74[95%CI2.93-7.64])と高リスク飲酒者(調整オッズ比 6.61[95%CI 4.10-10.68])は、アルコール関連欠勤のオッズ増加と関連していた。また、HED 頻度が高いことは、アルコール関連およびより広義の病気によるアブセンティーズムと有意に関連していた。すべて調整されたモデルでは、定期的な飲酒と上義の病気による欠勤の間には有意な関連は認めなかった。</p> <p><b>結論:</b> 1 日の平均飲酒量とアルコール関連の欠勤には正の用量反応関係が認められた。また、HED のみがより広義の病気による欠勤と有意に関連していることが示された。飲酒量を軽度と中程度に減らし、HED の頻度を減らすための集団レベルの政策は、オーストラリアの労働者の職場のアブセンティーズムの問題に対処できる可能性がある。</p>		